

■ 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。
ここに当社グループ第92期中間期（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申しあげます。

当中間期は、新型コロナウイルスの感染拡大によりサプライチェーンが混乱する状況において、お客様、お取引先様、従業員とその家族の安全確保と感染拡大の防止を最優先にテレワーク勤務や時差通勤などの感染拡大防止対策を講じ、お客様への製品・サービスの供給などの事業継続に努めました。また、このような事業環境においても、本年4月にスタートした中期事業計画「R1」で掲げた構造改革／事業改変を継続して実行し、現行ビジネスの安定化と利益ある成長の確立に向けて、既存ビジネスの質を転換させる取り組みを着実に実行してまいりました。さらにSMD対応小型全固体電池につきましては、量産開始に向けて当社湖西工場（静岡県湖西市）での量産ラインの構築を推し進めてまいりました。

当中間期の経営成績につきましては、昨年7月の事業譲渡により売上高は前年同期に比べ20億10百万円減の299億75百万円となりましたが、構造改革の効果や経費削減により営業利益は前年同期に比べ9億27百万円増の9億63百万円となりました。経常利益は7億9百万円（前年同期は37百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する中間純利益は5億2百万円（前年同期は6億85百万円の親会社株主に帰属する中間純損失）となり、新型コロナウイルス禍のなかではありましたが、いずれも大きく業績が改善しました。当中間期の業績の詳細につきましては、当報告書の4ページをご覧ください。

中間配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたいと思います。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申しあげます。

下期以降につきましては、2020年8月に発表しました当社アルカリ乾電池の製造子会社であるPT FDK INDONESIAの事業譲渡が10月1日付で完了したことにより、アルカリ電池事業につきましては、高品質な製品とスピーディーな供給体制で国内市場向けのビジネスに集中し、利益率の更なる向上および事業体質の強化を図ってまいります。また、「R1」で掲げる新事業につきましては、SMD対応小型全固体電池の早期のビジネス貢献に向けた取り組みを推し進めるとともに、11月に発表した大規模蓄電池用次世代電池である水素／空気二次電池や現在開発を進めているニッケル亜鉛電池につきましても、実用化に向けて開発を加速してまいります。

当社グループは、株主様をはじめとするステークホルダーのすべての皆様に満足いただく「And Game」を実現するために従業員が自律的にお客様に満足いただける努力を惜しまない企業文化の醸成に努め、引き続き企業価値の向上に繋げてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



代表取締役社長
長野 良

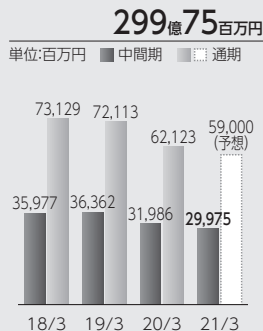
Profile プロフィール

1961年9月7日生まれ
1985年4月 富士通(株)入社
2019年4月 当社執行役員常務
2019年6月 当社代表取締役社長

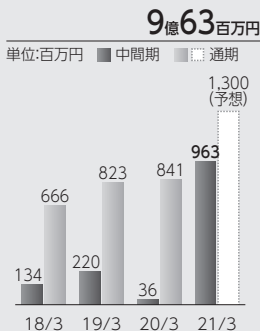
2020年12月

■ 連結決算ハイライト

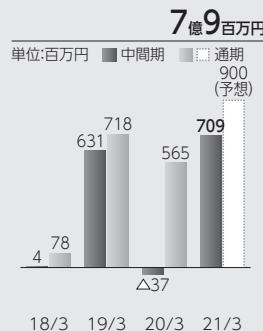
売上高



営業利益



経常利益又は経常損失(△)



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益又は親会社株主に帰属する中間(当期)純損失(△)

